

Paṭipadā

Vol.16, No.2 / 通巻 172 号

6

仏暦 2553 年
(平成 21 年 / 2009 年)

Namo Tassa Bhagavato Arahato Sammā Sambuddhassa

阿羅漢であり、正自覚者であり、福運に満ちた世尊に、敬礼したてまつる

Paṭipadā^{パティパダ}とは、
パーリ語で「道」を意味します。
中正の道（中道）、すなわち八正道は、
Majjhimā paṭipadā^{マッジママーパティパダ}といします。
お釈迦さまのお示しになられた
幸福への普遍的な「道」を
私たちも歩み続けているのです。



日本テーラワーダ仏教協会

巻頭法話

安全第一

—— 保障がないと人生は心配 *Nothing is secure in life*

根本仏教講義

サンガラーワ経 能力を奪う五つの障害【7】 智慧の完成「七覚支」②

釈尊の教えとあなたとの対話

【142】 修行はヒマ人のもので無神論の方が徹底している
／ 一般人に宗教は不要／ブツダの教えは古いまま

パリー経典を読む

八正道大全【6】 「正見・正精進・正念」の三法が正見を追いかける

Meditation on Loving-kindness

慈悲の瞑想【4】 最終回

ジャーナカ物語

【114】 アオサギ物語

初めての人のパリー語

パリー語アイウエ?オ【83】

パリー経典 小部

クツダカパータ【下】

A・スマナサーラ長老
編集／出村佳子

15

A・スマナサーラ長老
編集／佐藤哲朗

21

A・スマナサーラ長老
テキスト化／趙顯治 編集／杜多千秋

26

H・グネワラナ大長老
翻訳／出村佳子

35

監修／A・スマナサーラ長老
編集／早川瑞生 イラスト／たまきゆきこ

40

文／小野道雄

48

翻訳／正田大観

50

連載

寄稿・報告

【特別寄稿】
業が結果を出すメカニズム
関西精舎関係の進捗状況報告【34】
準備に大忙し

インダラタナ師
翻訳／影山幸雄
文／藤本慈照・趙顯治
写真／趙顯治
61 57



【投稿】読者のページ ひろば
在日ミャンマー新精舎落慶法要に参加して

63

協会ニュース
編集後記

Satma
椰
65 66

6月 Information

行事と各種講座&会員の自主活動のご案内

裏表紙側【Info.1】よりお読み下さい

【Info.1】 初心者指導のある冥想会

【Info.2】 お知らせ

【Info.3】 指導者のご紹介

【Info.4.5】 6月のスケジュール

【Info.6-13】 行事・講座

● トビックス

● 定例講座

【Info.14】 宿泊冥想会

【Info.15-17】 会員の自主活動

【Info.18-21】 精舎のご案内

【Info.22-23】 協会のご案内

【カラーページ】

四大聖地

写真／相田晴美

監修
本文イラスト
本文写真
表紙・扉表紙
地図
レイアウト
アルボムツレ・スマナサーラ長老
たまきゆきこ／酒主淨忍
相田晴美／趙顯治
おかざき さゆり
おかざき さゆり
おかざき さゆり／高橋優子

Dhammapada Chapter XX MAGGA VAGGA

288. Na santi puttā tāṇāya,
Na pitā nāpi bandhavā;
Antakenādhipannassa,
Natthi ñātīsu tāṇatā.
289. Etamatthavasamṃ ñatvā,
Paṇḍito sīlasamvuto;
Nibbānagamaṇam maggaṃ,
Khippameva visodhaye.

288. 子らは救護に役立たず
親、親戚も亦同じ
死神その手で掴む時
親族たりとも救い得ず
289. この
厳肅な義理を知り
よく自制せる賢人は
持戒つつしみ速やかに
涅槃の道浄めかし

訳 江原通子

Nothingissecureinlife

安全第一
保障がないと人生は心配

ダンマパダ
第20章
道の章
二八八〜二八九

「安全第一」。このスローガンを初めて目にした時、意味がよく分からなかったのです。「Safety is number one」とそのまま英語の単語を入れても、何の意味も持たない言葉です。次に、はたと気づきました。これは、「Safety first」という意味ではないのかと。その場合は、「何よりも先に安全を考えなさい」という意味になります。そこで、我々が最優先にすべき安全について、仏教の立場から考えてみることにしました。

まず世間が考える「安全第一」について説明しましょう。工事現場では、仕事する人々が怪我をしないように気をつけることが、安全第一なのです。それでも仕事中、それなりの怪我をするのは、いくら気をつけても避けられないことです。人が怪我した程度では、それほどニュースにはなりません。しかし死傷者が出たら、たいへんな事故になります。簡単には済まないのです。もしかすると、その業者に業務停止命令が下される可能性もある。いくら厳しい法律を立てて工場・工事現場などで人の身体の安全を確保しようとし

ても、事故が起こるのです。「事故ゼロ」というスローガンもありますが、一度たりとも実現できたことはありません。と思います。

人々は、ふざけてスローガンだけ掲げて遊んでいるわけではありません。安全第一、事故ゼロを実現しようと、あらゆる手を打っています。身を守るための道具は、たくさん開発しています。人が日常使う道具についても、安全ということを先に考えるのです。子供の使う傘がありますね。傘の手元（柄）は何かにかけて大人がぶら下がっても壊れないほど頑丈です。露先（傘の骨の先端）はけっこう大きい玉になっている。子供用の傘には大き過ぎて、プロポーションも悪いと思います。しかし、聞いた話によると、子供が遊んでいる時、耳・鼻などの穴の中に入ったら危険なので、たとえふざけても耳の穴の中に入らないように大きく作っているそうです。この例で、人々がどれほど安全ということを考えているのかとお分かりでしょう。宇宙船から子供のおもちゃまで、人々が作る品物は何で